

高い精度で同時に両転移が起きていることを示しました。
この構造相転移は近年、電子ネマティック不安定性として
話題になっているのですが、その際、面内歪やドープなど
でエンハンスされて観測されます。本研究は ^{75}As -NMR
を用いた電子ネマティック研究の対照リファレンスとして
も引用されて、現時点までに200弱と少なくない引用数を
頂いております。

ところで、物理学会の受賞理由では、「多くの研究者が
超伝導状態の解明に注力し激しい競争を繰り広げていた。
それに対して著者らは、そこから一步引いて母物質の磁性
に焦点を当て、鉄系超伝導体の物性研究の基礎を築いた点
で…」とユニークな紹介をされており若干気恥ずかしい
です。鉄系超伝導の研究全体を富士山に例えると、裾野の
一部として評価されたということですが、「基礎を築いた」
ということで今回栄えある賞を頂きました。著者全員を代
表して物性研究所の皆様に深く御礼申しあげます。



(2019年3月16日、九州大学伊都キャンパス椎木講堂にて)

